

株式会社 全国商店街支援センター

平成 26 年度 商人塾支援事業

事業報告書（概要版）

平成 27 年 2 月

事業委託先：四日市商工会議所

目次

1. 事業目的	
(1) 対象地域の背景と課題	1
(2) 目標（塾生の育成像）	2
2. 事業内容	
(1) カリキュラム	2
(2) 視察研修	3
3. まとめ	
(1) 活性化プラン	6
(2) コーディネーターの総括（研修のポイント、重点的に指導した点等） ..	8
(3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動展開等）	10
(4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等	11

実施機関名：四日市商工会議所（三重県 四日市市）

参加商店街：四日市一番街商店街振興組合、四日市諏訪西商店街振興組合、
四日市諏訪商店街振興組合、四日市駅西発展会

テーマ：「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化



1. 事業目的

（1）対象地域の背景と課題

四日市市の近鉄四日市駅前周辺中心市街地は、他都市と同様に衰退傾向にある。主な背景としては、大型商業施設の郊外立地や、購買行動の変化（ネット購買）などがあげられる。対象地域の商店街は、大型商業施設の撤退（ジャスコ、大型書店）や火災による店舗の焼失で、大きな空地や空ビルが活用されないまま放置された。近年では飲食店の出店により夜間は賑わいを取り戻しているものの、物販店は店主の高齢化や商業環境の激変による廃業、それに伴い商店街組織の弱体化が進み、商店街全体の商業機能やコミュニティ機能の低下が懸念されている。

その一方で、中心市街地の居住人口は、マンション建設が進み、10年前に比べ約1割増加しており利便性の高い中心部へ居住が戻りつつある。

中心市街地における賑わいづくりのイベントは、はしご酒・まちなかバル、四日の市・マルシェ・骨董市などを開催し、当日は多くの来場者があり賑わいをみせている。また、近鉄四日市駅前に集積する飲食店、宿泊施設も三重県内のビジネス、観光の拠点として賑わってきている。

現在、近鉄四日市駅前周辺中心市街地の商店街は3つの振興組合が存在し、各エリアにおいてマネジメントを行ってきた。しかし、駅前には公共交通機関、宿泊施設、飲食施設が集積しているが、宿泊施設を利用するビジネス来訪者や観光客を街なかへ回遊させる仕組みや、案内表示等おもてなしにふさわしい設備等が不足している。

継続して行われている賑わいイベントにおいても、集客だけでなく各商店にとって利益となる協力も必要とされ、個店並びに商店街の魅力アップと利便性

の向上、イベント等の情報発信の改善・強化が必要とされている。これからのまちづくりには、四日市の強みを活かし、来市者が四日市を安心して満喫できる仕掛け作りを行ない、おもてなしのできる商店街が必要と思われる。

(2) 目標 (塾生の育成像)

目 標

本事業を通じて、商店街振興組合の果たすべき役割と、四日市を「現代版宿場町」として再認識して頂くため、同様のコンセプトと連携性を持ち、来市客に安心しておもてなしを感じて頂ける商店街を目指す。塾生を対象に以下の①～③を実践することにより、集客力、おもてなし力、情報発信能力を身につけ、次世代に向けた活性化プランを推進できる人材を育成する機会とする。

- ①他地域で行われている実績のあるイベントや集客術を学び、当地域においても、有益なイベントの実施、身近な集客資源の発掘によるまちなか観光等、有益な活性化策を推進し、実践的内容の商人塾とする。
- ②マップ、案内表示など含め近鉄四日市駅前のおもてなし強化により、中心街のイメージアップ、来市者のリピート率を高め商店街の活性化に繋がるようにする。
- ③中心市街地の情報発信は、市内外だけでなく、県外へも広く周知する為のツールとして、WEBサイトの構築、SNSの活用やまちなか情報誌等を使い、各種イベント、観光情報を発信する仕組みを構築し、四日市市中心市街地の情報発信力の強化を目指す。

2. 事業内容

(1) カリキュラム

(全6回 コーディネーター：浅井 良隆 氏 (アット・ドリーム代表))

日時	講義テーマ	講師
9月22日 (月) 19時～21時	1、現代版宿場町構想について 2、観光・まちづくりのコンセプトについて	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介
10月17日 (金) 19時～21時	1、「現代版宿場町よってこに四日市」について 2、駅前周辺商店街における連携の為の意見交換会	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介

11月25日 (火) 8時～19時	参考となる視察研修会の実施 (神戸市：新長田一番街商店街周辺)	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介
12月13日 (土) 14時～17時	1、新長田一番街商店街周辺視察報告 2、視察と研修を受けて「現代版宿場町 よってこに四日市」の具体的な内容 について	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介
1月13日(火) 19時～21時	1、「現代版よってこに四日市」の具体的 な内容について	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介
2月3日(火) 19時～21時	1、「現代版宿場町よってこに四日市」の 内容発表	コーディネーター： 浅井 良隆 講師：田尾 大介

(2) 視察研修

【視察】

テーマ：「参考となる商店街の視察研修会の実施 鉄人28号誕生とコンテンツまちおこし」

講師：岡田 誠司 氏

講師プロフィール：NPO 法人 KOBE 鉄人プロジェクト事務局長

震災以降の新長田の賑わいづくり事業に係り、様々なイベント企画、施設の販促に取り組む。復興のシンボルとしての鉄人28号プロジェクトに参加し、再開発事業で整備された街並みを中心とした活性化事業を発信している。

視察先：神戸市 長田区 新長田一番街商店街他

視察先選択目的

横山光輝生誕の地という、地域が持つ資源を活用したコンテンツを取り入れており、「鉄人28号」、「三国志」「ぽっぷカルチャー」等ユニークな試みでまちおこしを行なっている新長田区一番街商店街を視察先として選択した。これから当市において取り組んで行く新しいアイデア、仕掛づくりの作成に生かす。

研修内容・視察目的に対する成果等：

神戸市長田区は古くから地場産業である靴の街と知られ、神戸の経済を土台から支える傍ら、多くの商店が軒を連ねる商店街として発展した。しかし、昭和60年代には地場産業であるケミカルシューズ産業の海外への生産拠点移転の影響を受け、徐々に産業が衰退していった。平成の不況の中、1995年の阪神淡路大震災により、JR長田駅一体及び、大正筋商店街は大火災によって壊滅的な打撃を受けた。

震災後失った自宅や店舗を早急に復旧すべく、「新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業」として復興を進めることになり、復旧するにも働く場所の確保が必要と考え、久二塚地区震災復興街づくり協議会を作り、震災からわずか144日目に、ダイエーを含め100店舗が集う仮設店舗村「パラール」が完成し、復興へ向けて邁進した。復興への様々な取組みの中で、特に神戸市出身の故横山光輝氏の代表作「鉄人28号」モニュメントの建造は震災復興のシンボルとして、メディアでも話題となり多くの観光客を招く資源となった。また、同氏の作品である三国志を紹介した常設ミュージアムやキャラクター等のコンテンツも取り入れ、引き続きユニークな試みを実践している。

今回、四日市の駅前周辺商店街における「現代版宿場町よってこに四日市」に繋げるため、各商店街振興組合等が一体となった取り組みや、故横山光輝コンテンツに基づいて行われている様々なイベントによる集客活動や魅力ある仕掛けづくりを行なっている神戸市新長田一番街商店街を視察した。

新長田区は地域が持つ資源を検討した結果、新たな街の賑わいづくりに鉄人28号と三国志をコンテンツとして選択し、商店街への集客効果を狙ったイベント開催を積極的に実施している。当市において、「現代版宿場町よってこに四日市」の内容に取り入れるオンリーワンやナンバーワンを見つけるきっかけとし四日市ならではの取り組みの実現化に繋げる。また、プロジェクトを進めたNPO法人KOB E鉄人PROJECT事務局より、食やアニメ等の地域の芸術・文化・特性を上手く活かした新たな事業展開を実施している現状を聞くことができ、地域のイメージの向上に加え、新長田駅周辺の回遊性の向上や、新長田区への経済波及効果を学んだ。今後のコスプレイベントやオリジナルキャラクターの開発等、鉄人28号と三国志のまちづくりを推進する中で、ポップカルチャーという新しい集客活動を進めている現状を知ることができた。塾生にとっては、四日市の現状と比較する材料となり、未来の自分達の商店街のあるべき姿と照らし合わせて、四日市ではどのようなコンテンツが有効活用できるのかの意識付けとなった。

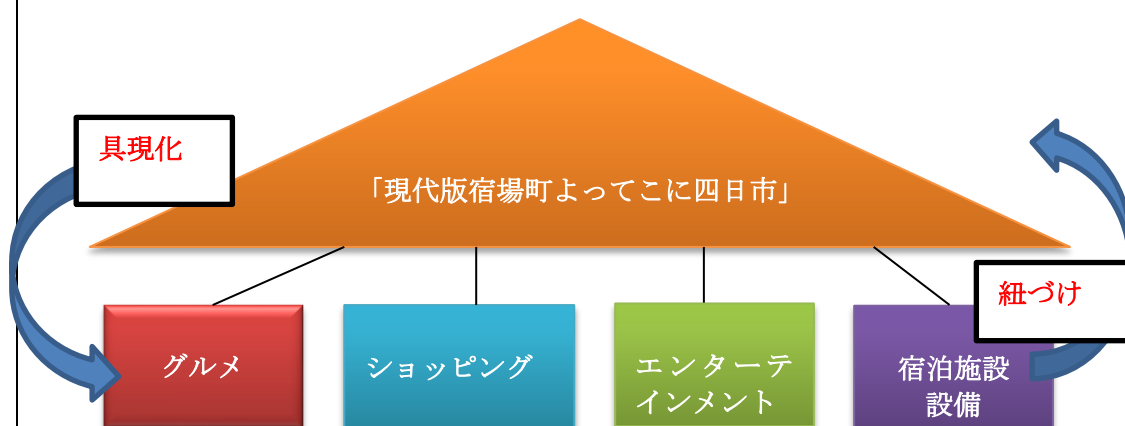


3. まとめ

(1) 活性化プラン

- ① 四日市への来市客をターゲットに、安心安全な空間を提供し、おもてなしの具現化を行なう。

個別の商品やサービスを統合するコンセプトとして「現代版宿場町よってこに四日市」を共通の目標とし、来市客に高付加価値をもたらす、グルメ、ショッピング、エンターテインメント、宿泊施設を「現代版宿場町よってこに四日市」に紐づけて具現化の基礎として検討した。



- ② ①を具現化する為に、塾生が現代版宿場町を訪れる具体的な、来市客を以下の3パターンに仮定した。



四日市は産業の集積地
関東、関西から日々出張者が訪れる。



ナガシマや伊勢神宮の
人気観光地に訪れる観光客の宿泊地



各種団体やビジネスコンベンションの開催地
同窓会の会合も四日市

※MICEとは、Meeting(会議・研修・セミナー)、Incentive tour(報奨・招待旅行)、ConventionまたはConference(大会・学会・国際会議)、Exhibition(展示会)の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指す。

出張客

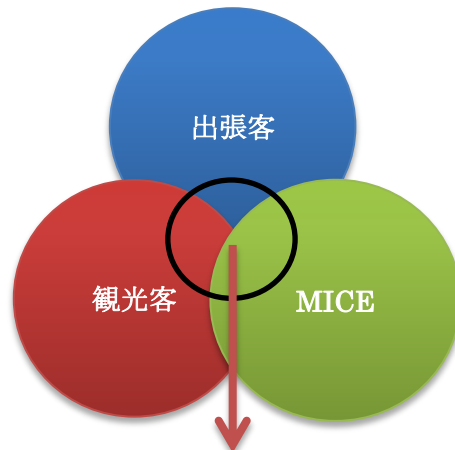
男性二人の上司と部下で、東京から新幹線と近鉄利用で来市する。主な楽しみは仕事後の食事と四日市の夜の街。

観光客

冬の週末の観光客で、若いカップルで関西方面から自家用車で来市する。主な楽しみはショッピングと四日市の周辺にあるナガシマリゾートでのショッピングで、観光に加え美味し食事が希望。

MICE

同窓会目的の30代独身女性で、近隣市在住のOLであり、近鉄とバスで四日市に集合。主な楽しみは仲間とワイワイ美味しい食事とショッピングが目的。



お客様の共通ニーズは、

- ①安心して利用できるグルメ。(ランチ+ディナー+呑み+スイーツ)
- ②美味しく、自慢のできるお土産。



でも、現状では、

- ①沢山有り過ぎて、どこがオススメなのかわからない。
- ②知らない店舗に入るのは、勇気が必要。
- ③何が名物で、どこで買えるのか。

＜課題の結論＞

適切な場所とタイミングでお客様の求める情報を提供する。

地元民が保証する安心して利用できるグルメ情報並びに買い物情報を、駅・飲み屋街・ホテル・タクシー等、WEB上でいつでも、便利に入手可能な状態を目指す。



(2) コーディネーターの総括（本研修のポイント、重点的に指導した点等）

■ 研修のポイント

① 商店街同士の結びつきの強化

これまで商店街という垣根を越えて、連携しながら取り組むということにはなかった。今回、個店・商店街という垣根を越えて、「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化に向けて、何を行うことが必要であるかについて塾生達が統一した議論を行えた。今回の商人塾では、商店主同士の横の団結力強化を生み、新たなネットワーク構築へと結び付いている。

② 新しい商店街へ生まれ変わる取り組みの具現化

今回の研修は、1つの商店街を活性化するという取り組みではなく、エリア活性化につながる具現化の検討であり、いわばエリアマネジメントにも繋がる要素をもっている。

③ 塾生たちによる自主的な議論ならびに共有化

講師サイドからの一方的な進め方では、本研修終了後に今後の構想の具現化

活動には繋がらない。なぜなら、与えられたことをすることになる為で、自分たちが納得して取り組む訳ではないからである。その為、構想の具現化に向けて、どのようなことをすれば可能かを議論するワークショップに時間をかけ、個々の塾生の思いの発表並びに塾生同士の思いの共有化を図ることで、今回の研修に留まらず、継続して構想の具現化に向けて活動できることとしている。

■ 重点的な指導面等

今回の構想については、ハードとソフトの両面での取り組みが重要であるが、ハードを考えていくと各種機関との連携も必要となることもあり、ハードに重きを置くのではなく、塾生たちが積極的に関わられるソフト面に指導を注力した。

「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化の為には、先ずは宿場町とはどのようなものであるのかを知ることが必要であり、またその構想に至った経緯を知らない塾生もいた為、その共有化に重点を置いた。その構想の共有化ができた為、今後の現代版宿場町構想として実施しなければならないことの議論が、塾生たちの中で活発に行えることとなった。

キーワードは、来られた方への“おもてなし”である。

研修では、塾生たちの積極的な意見が出し合える場づくりを行い、エリアの活性化の為に個店や商店街としての取り組みでなく、一体となった取り組みとして何をしなければならないのかを、ワークショップ手法により明確化した。この手法により、自分たちが実際に何に着手しなくてはいけないかの意識付けへと繋がった。

新長田区の視察においては、鉄人28号をはじめとした故横山光輝作品のコンテンツを使用した様々なイベントを開催し、商店街への集客を狙った仕掛け作りを学んだ。四日市の現状と比べる材料となり、自分達の商店街にとってどんな仕掛けづくりが必要なのかの問題意識を持つことができた。

構想の具現化については、できることを行っていくこと。つまり、イメージがしやすいもので議論することが重要であり、ステップ1として、宿場町に来られる方をどうやっておもてなしするかについて、具体的なおもてなしプランへと落とし込んだ。これにより、いくつかのおもてなしプランが作成され、今後の構想の具現化の一部として実施していく。

また、塾生たちの議論の中で、来訪者が現代版宿場町で楽しめる情報発信ツールが不足しているということが明確化され、今後どんなターゲットにどんな情報提供をしていくかを再整理し、引き続き「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化に向けて、一部実行しながら、さらなる検討を継続して行うことが期待される。

(3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動方針等）

今回の商人塾において、近鉄四日市駅前周辺中心市街地の3つの商店街振興組合と1つの発展会が、商店街活性化に向けて検討できたことは初めての機会であった。組合、発展会は様々な業種で構成され、同じ駅前商店街で商いを営んでいる方々から、業種ごとの様々な意見を得る良い機会となった。しかし活性化プランの検討に取り組むと意識の差も見られたが、「現代版宿場町よってこに四日市」に至った経緯の詳細を理解することで、現代版宿場町のイメージの共有を行ない、意識統一を図ることができた。

今回の取り組みに参考となる商店街の視察として、神戸市新長田区一番街商店街周辺を視察し、新たな街の賑わい作りに横山光輝作品を基にしたコンテンツを取り入れ、集客効果を狙ったイベントを実施している現状を見ることができた。

ワークショップでは、各グループから典型的な四日市を訪れる来市客を仮想し、現代版宿場町に宿泊するお客様の理想的な滞在プランを発表した。近鉄四日市駅周辺に誘導できる仕組みや滞在中に楽しめる企画を作成することにより、来市客に対応する為の課題の抽出ができた。

①ワークショップの取り組みによる、塾生相互の交流も図れ、四日市の強み、オンリーワン、ナンバーワンを改めて知る機会となった。又、視察により塾生は、将来近鉄四日市駅周辺中心市街地の商店街があるべき姿になるための問題意識を持ち、課題の抽出や強みを生かした新しいおもてなしのアイデアや仕掛け作りの基礎知識とした。

②塾生にとって、商店街の今後の来市客を増加させる活性化策を検討し、商店主同士の商店街組合の枠を越えた団結力を生み、相互のネットワークを通じ、今後のプランに取り組んで行く姿勢を意識づけることができた。

③塾生からの意見として、来市客が滞在中に便利に安心して満足できる店舗や娯楽施設へ誘導できる情報発信が不足しているとの結論に達し、いつでも便利に情報が入手できる仕掛け作りを目指すべきとの結論に至った。

但し、新たな課題として、情報発信の具現化については、今後どの組織が取り纏めを行ない、管理を進めていくのか等、連携できる組織作りが課題となった。

今年度商人塾終了後の活動について、参加塾生から、継続してまちなか情報発信方法について検討する場を求める声が多く、今回の商人塾で学んだ課題を、今後の来市客を安心しておもてなしできる「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化に向けて、検討して行くこととした。

(4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等

改めて塾生同士で意見交換を行い、四日市の強みやセールスポイントがたくさん存在することが理解でき、エリア全体の商店街の現状を再確認できた。

しかし、次年度以降の「現代版宿場町よってこに四日市」の計画検討について、組織同士の連携や、地域全体を把握してリーダーシップを取れる人材の育成が必要と思われる。

本商人塾事業で終了するのではなく、今回の商人塾において抽出された課題を基本として、継続的かつ着実に、おもてなしのできる「現代版宿場町よってこに四日市」の具現化に向けて進めていきたい。

平成 26 年度 商人塾支援事業

委託元：株式会社全国商店街支援センター

〒104-0043

住所：東京都中央区湊 1-6-11 八丁堀エスワンビル 4 階

TEL：03-6228-3061

委託先：四日市商工会議所

〒510-0085

住所：三重県四日市市諏訪町 2-5

TEL：059-352-8191